



校長室通信

小国町立小国中学校

令和4. 9. 2(金)No13

文責 狹間卓史



「2022年 熱くつながる 最高の夏」

前号ではこの夏休みまでの運動部（クラブ）の活動の様子をご紹介しましたが、今号では様々な活動に熱心に取り組む本校生徒の姿をご紹介します。

まず吹奏楽部ですが、8月11日（木）、熊本市の「えがお健康スタジアム」において開催された熊本県マーチングフェスティバルに、阿蘇郡市連合チームとして出場しました。例年であれば夏休み期間中に県吹奏楽コンクールに出場し、秋には阿蘇郡市音楽会にも参加するというスケジュールでしたが、今年はこの一本にかけての活動でした。このフェスティバルも過去二年間、コロナ禍による中止で三年ぶりの開催でした。当然ながら今の中学生にはこれまでの経験者がいない活動ということで、9年生でさえも手探りの準備だったそうです。しかもコロナ禍ということで、活動自体が制限され、阿蘇連合（郡内中学校・高校の5校）として合同練習できたのはわずか4回。それでも当日は息の合った素晴らしいマーチングを披露してくれました。夕方からの開演でしたが、快晴に恵まれたこの日は、夏の暑さを残したスタジアムに生徒らの熱気が重なり、心地よいエネルギーが溢れる空間となりました。県内の保育園児から社会人までの、マーチングに取り組む各団体が一堂に会するこのフェスティバルは今年で49回目。会場に実際に足を運んでみて、それだけの回数を重ねてきた理由がわかる気がしました。音楽にかける熱い思いがそこには溢れていました。

本校吹奏楽部の生徒にはフィールドに立てたからこそ見えた景色、聞こえた音をこれからも大切にしていきたいと願っています。

次に、小国郷美術部の紹介です。本校や南小国中の生徒が加入しており、日頃から週二回のペースで活動する会でしたが、夏休み中も定期的に活動を重ねていました。私が参観させていただいた日は、東京の「森美術館」や他県在住の芸術家の方々とオンラインで交流会を行っていました。町内にいながら遠く離れた場所の方々と同時進行で学び合い、交流を重ねる様子を嬉しく思うと同時に、意欲的なその姿に頼もしささえ感じました。それと同時に「学び方」が確実に変わったこともあらためて実感できました。常に本物に触れながら、プロの方々と交流できる環境があるということにただただ驚くばかりです。本町規模の市町村で町内に美術館を持つ町はあまりありません。そういう中、本校の7年生はこの「坂本善三美術館」に、毎年、夏休み期間中に「鑑賞会」として学ばせていただいています。加えて、町内の児童・中高生（支援学校も含む）は同美術館はもとより「北里柴三郎記念館」、「鍋ヶ滝」への入場料が免除される「スクールパスポート」も町から与えられています。この恵まれた環境をどう生かしていくのか・・・あらためて頑張ります。

※この通信のカラー版は、「小国中学校ホームページ」でご覧いただけます。



【ASOの人文字 指揮は山部由美教諭】



【最高のフィナーレ】



【小国郷美術部の活動の様子】



【オンラインでのやりとりの様子】